

ひさびさに復活
しました!



ミーユの
研究者に聞く

番外編



研究者・市民・地域の連携で

“真の三陸復興”を

朝日田 卓(あさひだ たかし)
■北里大学海洋生命科学部
水圏生態学研究室 教授

ミーユ
北里大学海洋生命科学部は、
岩手県大船渡市にある三陸臨
海教育研究センターを拠点に
三陸沿岸域の研究をしていますよね。

朝日田
はい。東日本大震災以降、
学部の教育は相模原キャン
パスに移ることにになりまし
たが、2014年には現センターが
設置されて、学部2年生の臨海実習を
行ったり、復興支援研究事業の実施拠
点として、研究が継続されてきました。

学部の創立からは約50年になります
が、この地では震災前から多くの重要
な研究が行われてきたのですよ。

ミーユ
すごい!地元の方々と
交流もたくさんありますね。
高校生のSSH事業で講義
をしたり、朝日田先生が講師をつとめ
る小学生の体験学習は2002年か
ら続いているとか:

朝日田
ええ。越喜来小学校では毎
年「川の楽校」という体験
教室を開いています。研究



室の大学院生や4年生がアシスタント
です。浦浜川に出て、川の音や匂い、
風や温度などを五感で感じてもらい、
網を持って、魚やエビ、カニなど川の
生き物を捕まえます。採集した生き物
は小学校の理科室に運んで顕微鏡も
使って観察し、名前を確認するなどし
て、実物による体験を積んでもらって
います。上級生が下級生に教えてあげ
る姿も見られ、子どもたちの成長を感
じながら、私たちも楽しんでいきますよ。

ミーユ
浦浜地区では、新たにでき
た海岸に生き物がいること
がわかって、津波で失われた
防波堤を再建する時に予定していた場
所より200m内陸側に設置されるこ

とになったと聞きました。それって:
研究の結果が反映されたということ?

朝日田
漁業者の方々や、住民の皆さ
んの要望があつてのことです
よ。漁協の組合長さんを始め
しながあつて、決定されたのです。

浦浜海岸では、津波や地盤沈下
よつて防波堤が消失し、海岸線が内陸
側に前進しました。その後、田畑だつ
た土地に砂浜域が広がつて、仔稚魚が
出現し始めたのです。コンブ藻場も繁
るようになり、アワビやウニの餌場
なることを期待しています。学生たち
と研究を続け、私たちは各種の研究結
果を市民公開シンポジウムなどで報告
していましたが、地域の皆さんが景観
や環境を考えて、砂浜を残してほしい
と願つたからこそ、浜が保全されるこ
とになったのです。

ミーユ
みんなで考えることができ
てよかったですね!子ども
たちも、海水浴や釣りがで
きるかな。

朝日田
そうですね。調査結果を積
極的に発信し、情報共有す
ることはとても大事です。
自治体などの様々な機関や、漁業者、
市民、研究者が連携し、新たな価値観
を持つて持続可能な開発をしていかな
くてはなりません。住民の命を守りな
がら自然の再生を妨げない復興を進め
ていけるよう、これからも研究を続け
てみなさんに報告します。



浦浜海岸で行われた大船渡市立博物館との共同企画による観察会。
左手後方に見えるのは、地域住民と検討して再建された防波堤